

# 津房地区公民館便り

編集・発行  
津房地区公民館

電話番号  
48-2001



## 11月11日(土) 第2回「茶飲の市」 午後1時～4時



前回七月十六日に行った、茶飲の市(公民館主催のみの市)を十一月十一日(土)の午後一時より行います。前回は、約三十名の方に参加いただきました。出品される方もいらっしゃいますが、お茶を飲んでゆっくり交流するのも目的です。

今回の目玉は…

① 安心院高校の生徒さんが自分たちで作った作物を販売します。

② 津房小学校の児童が学校菜園のサツマイモを販売します。

ひやかし・暇つぶし大歓迎!

前回同様、出品される方は五十円のお茶代をいただきます。  
(お茶を希望される方も五十円いただきます)

出品できるものは、加工食品でなければ何でもかまいません。  
※加工食品とは、「切る」「煮る」「焼く」「漬ける」などが手を加えた食品

ネットでは、楽天、Dorodon、メルカリ、ヤフオクなどいろいろなフリーマーケットがあり、相手の顔も見ないでやり取りが完了します。それはそれで便利ですし、売買が成立したら「はい! おわり」で、関係はなくなり面倒くさくもない。

でも、電腦空間でのやり取りより、対面での人と他者(ひと)とのやり取りやつながりの中にもきつと大切なものがあると思いますよ。



## 津房小学校文化祭

10月28日(土)・9:00～

津房ふれあい大運動会には、たくさんの地域の方々が集まってくださいました。あとで、聞いた話ですが、安心院町内では津房の運動会が一番“地域の方の参加者”が多かったそうです。ただ、コロナ前に比べると少なかったということですが。来年はもっと盛り上げましょう。

さて、津房小の教育文化祭が標記のとおり開催されます。公民館教室の「編物教室」「油絵教室」の皆さんの作品も展示します。

「家には小学生がおらん」という方も、小学生の発表を見て元気をもらいましょう。

また、午後にはジャズオーケストラの生演奏も鑑

賞できますよ。出かけてみませんか?

9:00～ 開会行事・各学年の発表

10:45～11:20 地域の方と児童のふれあい体験(昔のあそび)

13:00～14:30 スウイングエコーズジャズオーケストラの演奏

### 安心院高校よりお願いされました!

「茶飲の市」への高校生の参加をお願いに安心院高校に行ったときに、校長先生からお願いされたことをお伝えします。

『安心院高校が全国募集を始め、来年は県外・宇佐市外から生徒が来るかもしれない。そこで、学習机や家電製品、自転車など学生の生活の援助となるものを集めるかもしれない。』

※「〇〇があるよ」という方は、公民館にお知らせください。 ☎ 48-2001



グリーンカーテンを片づけたら…  
「こんなやつが土の中から  
出てきました〜」→



ネットで調べると「スズメガ」の仲間の蛹(さなぎ)でした。



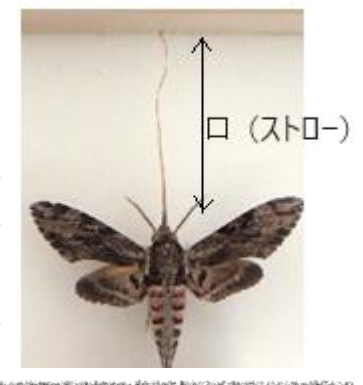
←これが成虫!名前の由来は、力強く雀(すずめ)のように  
飛ぶから、と書いていました。色や模様も雀のようですね。  
ネットの中にアサガオの葉っぱを食べているスズメガの幼  
虫の写真がありました。5~6cmもあるようです。→  
きっとグリーンカーテンのアサガオを食べて成長したのでし  
ょう(まったく幼虫には気づきませんでした)。



### スズメガのすごい能力

- ① 飛ぶ速さは時速50kmで、トンボと同じくらいの速さ
- ② 蛹にみられるストローみたいなやつは、成虫では体と同じくらい長くなる。  
(ふだんは蝶(ちょう)のように丸めている)

9月22日(金)に安心院支所  
でオンラインでの右の会が  
あり参加しました。公民館の隣で  
津房まちづくり協議会の事務局  
をしている岡喜久夫氏に『行ってみらんかえ』と誘われ、行ってみました。  
~案内パンフレットより~



農村 RMO (Region Management Organization) とは「農村型地域運営組織」

複数の集落の機能を補完して、農用地保全活動や農業を核とした経済活動と併せて、生活支援等地域コミュニティの維持に資する取組を行う組織のことです。

### 農村 RMO が必要とされる背景

農村地域、特に中山間地域では、高齢化や人口減少が急速に進行し、集落単体では、農用地の保全や農業生産だけでなく、集落機能の維持も難しくなる状況にあることから、広域的な範囲で支え合う組織づくりが進むよう、総合的な対策を講じることが必要です。

基本的に「小学校区単位」での取り組みが想定されていて、現在「集落単位」で行っている農用地の保全(道路の草刈り、水路の溝さらいなど)に加えて、高齢者をはじめとする生活弱者の生活支援(買い物・通院・ゴミ出し・見守り活動など)や地域資源の活用(営利活動など)を『校区全体』で自主的・組織的にやりましようということのようです。

現在、津房地区でも単独でのコミュニティー活動が困難になっている集落もあり、津房地区まちづくり協議会(以下まち協)が一端をお手伝いしています。高齢者の買い物や通院の支援もまち協は行っています。

津房では今、まち協に所属する皆さんが行っている事業を津房地区全体が組織だっで行えるようになれば、それが津房の農村 RMO なのかなと思いました。このままだと、あっちに限界集落!こっちも限界!

「座して死を待つより、出でて活路を見出さん」と言ったのは諸葛孔明